

A 192 パプアニューギニア高地人の食生活と血液性状——成人男女の比較——
大阪市大 ○奥田豊子, 中野ゆかり, 小石秀夫,
河野食品研究所 山口米子, 神戸女大 梶原苗美, 山口女大 宮谷秀一

目的 パプアニューギニア高地人は、さつまいもを主食とし、動物性蛋白質の摂取量が少ないにもかかわらず、健康的な日常生活を送っている。1977年より行っている調査の結果、住民の体格は、一般に皮下脂肪が少なく、筋骨逞しい体型を示すが、15~20才代の女子では、体重や皮脂厚が他の年代よりも高く、著しい脂肪蓄積が認められた。これらへの食事調査は成人男子についてのみ行ってきたので、今回は成人女子についても行い、栄養状態や血液性状について男女の比較を行った。

方法 調査は1982年10~12月、東部高地ベハ村(人口1151人)で行った。問診、体格の測定は977人が受診した。血液性状は737人から採血し、日立726型自動分析計を用いて血清成分を分析した。食事調査は現地成人男子10名(平均31才, 身長159cm, 体重59kg)、女子4名(29才, 148cm, 48kg)を対象とし、2~3日間秤量法により行った。また生活時間調査もあわせて行った。

結果 糖質、素繊維の摂取量が多いこと、動物性蛋白質、脂質、ナトリウムの摂取量が少ないことは1978年果の調査成績とよく似ているが、男子では米や缶詰めの摂取が増大し、蛋白質の摂取も年々増加の傾向を示していた。女子の労働時間は男子の2倍近く、消費熱量も50kcal/kgと男子の45kcal/kgより多いが、摂取熱量も62kcal/kgと多く、大まかな正の熱量出納を示した。これはさつまいもを1.5kg/日と大量摂取しているためである。この世代の女子の皮脂厚は前回同様、他の世代の2倍近くあり、血清脂質成分も他の世代より高い傾向を示した。